

# おだれいせき 尾垂遺跡 現地説明会資料

(一財) 長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

## 1 はじめに

発掘調査は中部横断自動車道建設に伴って実施しています。調査の結果、今まで知られていなかった古墳（円墳）1基、平安時代（約1,000年前）集落跡や中世の礎石建物跡などがみつかりました。

## 2 調査の概要

所在地 佐久市前山字尾垂

調査面積 4,000 m<sup>2</sup>

調査期間 平成 27 年 4 月 6 日から 12 月中旬

遺跡の立地 遺跡は蓼科山麓から佐久平に向かって南西から東北に延びる丘陵上に位置しています。

### 発見された遺構と遺物

**遺構**：古墳 1 基（古墳時代）、竪穴住居跡 17 軒（平安時代）、土坑 150 基（平安時代）、溝跡 2 条（平安時代）、礎石建物跡 1 軒（中世）

**遺物**：古墳時代の土器（須恵器の蓋）、平安時代の土器（土師器の甕・坏、羽釜、須恵器の甕）・<sup>ふいご</sup> 鞆の羽口・<sup>はぐち</sup> 鉄滓、中世の陶磁器、縄文土器、黒曜石（石器・剥片）、人骨、鉄製品など

## 3 新発見の古墳！

古墳は耕作地の造成によって破壊されていたものの、墳丘やその周囲をめぐる周溝が残存しており、内部の横穴式石室も確認できました。墳丘の裾近くには石列がめぐっています。この裾石間の長さから復元直径約 11 m 程度の円墳です。また、周溝は最大幅が約 2.5m を測ります。

南に出入り口を設けた横穴式石室の玄室（遺体を安置する部屋）は長さが 4.3m、幅は奥壁部分で 1.6m で、高さは天井を始め

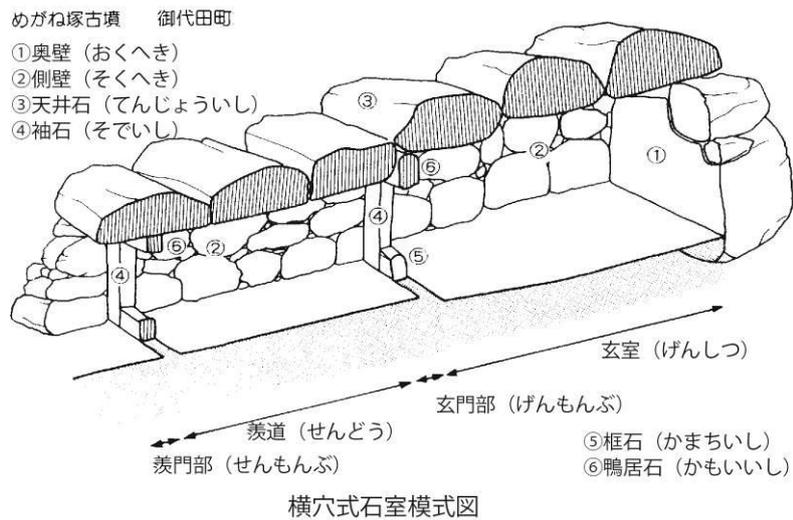


古墳全景（検出状況）

上部が失われているため 0.8m しか残っていません。羨道は残存長約 1.5m を測りますが、

側壁の大部分が失われています。石室の周囲には多量の川原石で裏込めがなされています。

墳丘からは須恵器の蓋（古墳時代）、玄室の中層では須恵器の甕の破片（古墳時代）が底面近くでは時代はまだ不明ですが須恵器や人骨、鉄製品が出土しています。



(長野県御代田町教育委員会「復元された馬瀬口 めがね塚1号古墳 発掘調査報告書」から転載)

#### 4 礎石建物跡

古墳南側の平坦な個所では、2間2間の礎石建ちの建物跡が検出されました。

礎石が見つかった面は現在の地表から浅く、耕作による影響を受けているため、礎石が取り除かれている可能性も考えられます。

この地は「<sup>りゅうかくじ</sup>龍覚寺」が存在したという伝承がある土地であることから、お寺に関する施設かもしれません。今後の調査で、礎石遺構の建立過程や礎石を抜き取った痕跡の有無、近隣の寺院の類例などを調べていきたいと思えます。



礎石建物跡

#### 5 おわりに

近年の中部横断自動車道の調査では、兜山古墳（大沢）や高尾古墳群5号墳（前山）と新発見の古墳の発見が相次いでいます。尾垂遺跡のある千曲川左岸（西側）は古墳の調査例が少ない地域であるため、今回の発掘調査の資料は、今後この地域の歴史を探るうえで貴重です。

古墳は前方後円墳、前方後方墳、方墳、円墳など上からみた形から、様々な古墳が知られています。このうち円墳は全国の古墳の約9割を占め、つくられた時期は、古墳時代前期（4世紀）から古墳時代が終わりを迎える（7世紀後半）までつくられました。



尾垂遺跡 全体図 (2015年11月7日)